

2021年

7月▶8月の星空



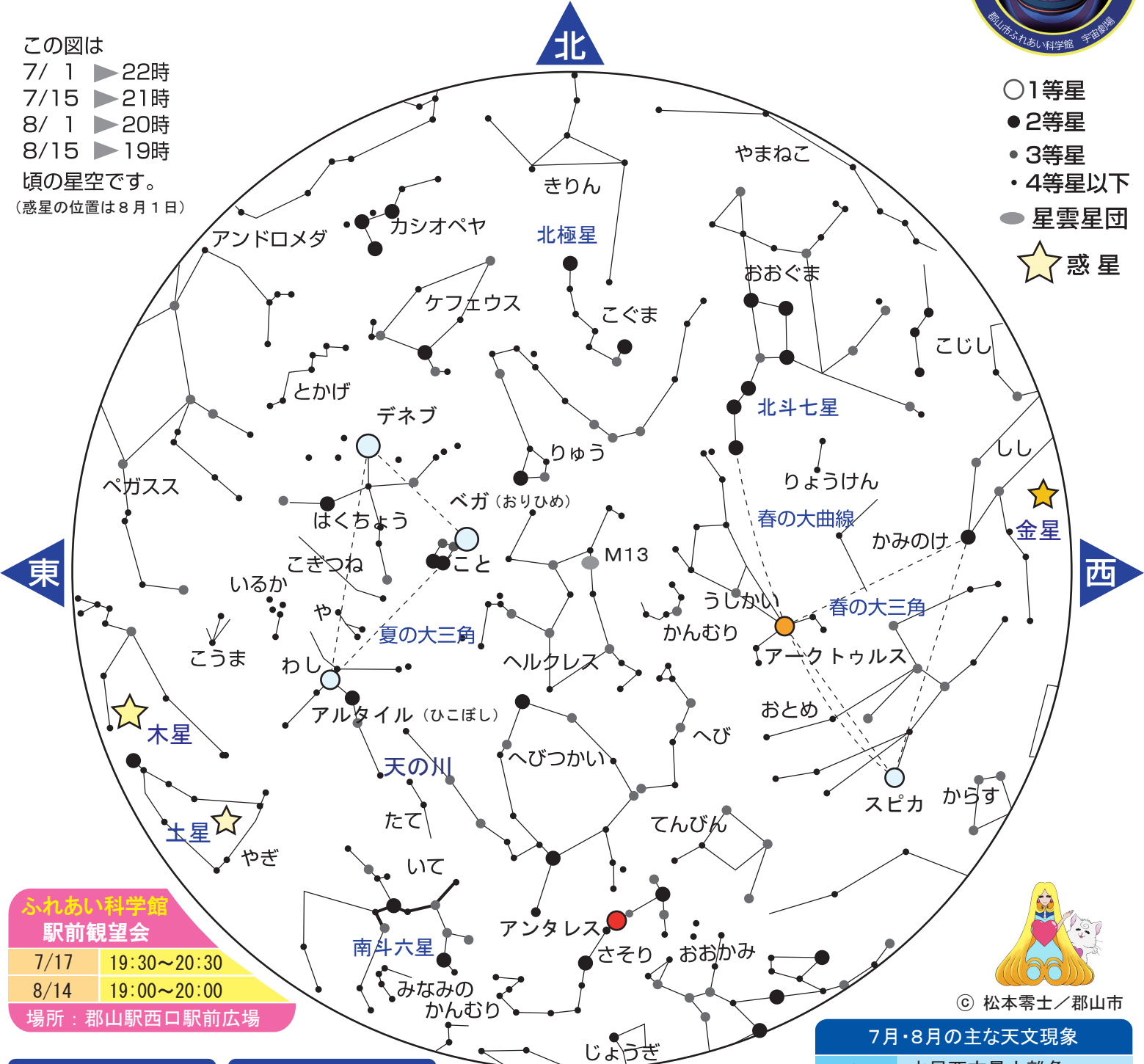
この図は

- 7/ 1 ▶ 22時
- 7/15 ▶ 21時
- 8/ 1 ▶ 20時
- 8/15 ▶ 19時

頃の星空です。

(惑星の位置は8月1日)

- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下
- 星雲星団
- ★ 惑星



ふれあい科学館 駅前観望会

7/17	19:30~20:30
8/14	19:00~20:00

場所：郡山駅西口駅前広場



© 松本零士・郡山市

7月・8月の主な天文現象

7/ 5	水星西方最大離角
8/ 2	土星が衝
8/13	ペルセウス座流星群極大
8/20	木星が衝

郡山の日の出・日の入			月の満ち欠け	
7/ 1	4:21	19:04	新月	7/10, 8/ 8
7/15	4:29	19:00	上弦	7/17, 8/16
8/ 1	4:42	18:47	満月	7/24, 8/22
8/15	4:54	18:32	下弦	7/ 2, 7/31, 8/30

※上弦、下弦は半月です。

夏の星座たちが夜空を彩る時季となりました。まずは南の空の低いところに赤く輝く一等星を探してみましょう。それがさそり座の心臓の星「アンタレス」です。次に東の空を見上げると、こと座の「ベガ」、わし座の「アルタイル」、はくちょう座の「デネブ」を結んだ大きな三角形「夏の大三角」を描くことができます。ベガは七夕伝説の織姫さま、アルタイルは彦星さまです。1年に1度、七夕の日に出会う2人の姿を思い浮かべながら探してみてください。また、夏の大三角から目線を下ろすと木星と土星が見えており、夏の空は一層にぎやかさを増しています。その姿を夏の星たちとともに楽しみください。

8月13日はペルセウス座流星群が極大を迎えます。今回は月明かりの影響をほとんど受けないため、好条件です。空の暗い場所で観察した場合、極大時では1時間に50個程度と多くの流星数になると予想されています。観察は夜中から夜明け前にできると良いでしょう。その日やその時間帯に見られなくても、11~13日の3日間は他の日より多くの流星が見られるチャンスです。時間は21時すぎから出現するようになるので、ぜひ空を見上げてみてください。また、観察場所は空を広く見渡せる場所が適しています。暗いところに目を慣らすことも大切なので、最低でも15分は外に出て、観察してみましょう。

